

# 時代を読み解く

シリーズ 33

## 世界で注目集めた ハマス指導者殺害

イスラエルはハマス壊滅を軍事作戦の目的の一つに掲げており、その一環としてハマス幹部の排除を追求している。軍事作戦開始以降、イスラエルはハマスの軍事指導層の半分を殺害したと主張している（7月時

点でハマスの大隊指揮官以上の幹部を少なくとも67人殺害したと発表）。特に7月にはハマスのトップである政治局長イスマイル・ハニヤと軍事部門

を排除すれば、攻撃の計画が期待する論理には次のようなものがある。武装勢力にとって重要な役割を果たす指導者や幹部を排除すれば、攻撃の計画

が期待できる。実際に排除できずとも、身の安全のために逃げ隠れすれば指導者は十分に役割を果たせなくなる。これに対し、標的殺害や斬首は効果的ではない、むしろ逆効果になる、との論理もある。

指導者や幹部の殺害は武装勢力からの報復攻撃を呼ぶかもしれない。また、指

導者や幹部の殺害は武装勢力からの報復攻撃を呼ぶかもしれない。また、指

導者や幹部の殺害は武装勢力からの報復攻撃を呼ぶかもしれない。また、指

導者や幹部の殺害は武装勢力からの報復攻撃を呼ぶかもしれない。また、指

## 指導者排除についての研究

標的殺害や斬首に有効性を期待する論理には次のようなものがある。

標的殺害や斬首は効果的ではない、むしろ逆効果になる、との論理もある。

指導者や幹部の殺害は武装勢力からの報復攻撃を呼ぶかもしれない。また、指

導者や幹部の殺害は武装勢力からの報復攻撃を呼ぶかもしれない。また、指

導者や幹部の殺害は武装勢力からの報復攻撃を呼ぶかもしれない。また、指

# 武装勢力の指導者排除

## 有効性を巡る議論

司令官ムハンマド・デイクや実行、さらには新規メンバー獲得等の組織運営まで

あらゆる側面に支障を来し得る。カリスマ性や能力を備えた人物の補充は容易ではないため、後継者の質が

導者を殺害すると、組織の目的に殉じた「殉教者」とり、その攻撃方法の洗練度が下がったり、組織の寿命

が短くなったりする傾向がある。あるいは、逆に組織が分裂し、より過激化する勢力

が生まれる危険もある。後継者がより強硬な人物になり、問題が悪化する可能性

もある。その一方で、効果的ではあると論じる研究では、標

的殺害や斬首があっても武装勢力の行動や組織の寿命に変化がない、それどころ

### 今月の講師

## 大西 健氏

防衛研究所 政策研究部  
グローバル安全保障研究室 主任研究官



1985（昭和60）年生まれ、三重県出身。立命館大学国際関係学部卒業、京都大学公共政策教育専攻専門職学位課程修了。2010年から防衛研究所勤務。21年に英リーズ大学政治・国際関係研究科博士課程修了。博士（政治・国際関係）。専門は強制外交、PKO。最近の主な業績に「強要と核兵器一能動的核威嚇の成功条件の考察」（一政祐行編著『核時代の新たな地平』防衛研究所、24年）、「既成事実化への対応策としての強要・強制外交―実績と失敗の原因」（『安全保障戦略研究』第3巻第1号、23年2月）などがある。

の衝突を繰り返すイスラエルや、長い対テロ戦争の中

不安をもたらして抑制効果

個人を狙った暗殺には法的・道義的問題もあるほか

暴力の抑制についても、指導者や幹部の排除後に攻

撃の質は低下して失敗が増え、軍事目標よりも攻撃

的排除の効果も多面的・長期的に評価する必要がある。

ハマスは過去にも複数回の指導者排除を経験しているが、組織が崩壊することはなかった。他方で、過去の指導者排除後にハマスの攻撃の頻度や洗練度が下がっており、内部対立も激化したという指摘もあ

テーマをさらに深掘り  
「防研セミナーフリーフィング」  
執筆者の大西主任研究官が今回のテーマをさらに深掘りして解説し、防衛省職員と突っ込んだ議論を行う「防研セミナーフリーフィング」が10月18日（金）午後3時～4時まで、市ヶ谷のF1棟6階「国際会議場」で開かれます。参加者・聴講者は隊員に限定します。ご興味ある方は奮ってご参加ください。▽問い合わせ＝防研企画調整課03-3268-3111（内線29177）まで。